

## 海の作文コンクール講評

受賞されたみなさん、おめでとうございます。

今年も、海での楽しい思い出や、海を大切にしたいという気持ち、海のすばらしさなどを素直に表現した作品が多かったです。

気の遠くなるような長い地球の歴史の中で、海はたくさんの命を育んできました。豊かな海であり続けるためには、私たち一人一人が「海は生命のふるさとだ」という気持ちをもつことが大切だと思います。

みなさんは、「海」をテーマにして文章を書くことで、海について深く考えることができたと思います。これからも書くことを通して、感じ方や考え方を深めていき、豊かな感性を育ててほしいと思います。

### 金賞 御影北小学校 中江 優来 さん (5年)

沖縄で見た美しい海に感動した中江さんは、神戸に帰ってきて子供新聞の特集記事を目にします。それは水温が上昇したことで沖縄のサンゴが弱っているという内容でした。その原因を中江さんは調べ、地球温暖化、CO<sup>2</sup>の温室効果、海の酸性化について学びました。そして、CO<sup>2</sup>を増やさないために自分たちができることを具体的に考えることができました。家族で見たきれいな海を守りたいという気持ちをもち続けてほしいと思います。

### 銀賞 米田小学校 水落 拓海 さん (6年)

水落さんは夏の合宿で海の浜辺のそうじをしたとき、ごみがたくさん落ちていることに悲しい気持ちになりました。また、低学年のころ家族で潮干狩りをしたことを思い出しました。浜辺のごみ拾いを通して、海の楽しさや海の大切さにあらためて気づき、海だけでなく、町がきれいになるように、ごみを拾う努力をしようという気持ちをもつことができました。その気持ちを大切にしてほしいと思います。

### 銀賞 学習小学校 東根 璃苑 さん (5年)

東根さんの学校では、ため池の水を海に放流するところを見学したり、EM団子作りに取り組んだり、ヒラメの放流体験をしたりするなど、漁業に関する学習がよく行われるようです。豊かな水産資源を維持するために、淡路島の海だけでなく、世界の海が美しい海でありつづけてほしいという東根さんの願いを、多くの人に伝えてほしいと思います。

### 銀賞 学習小学校 土井 結月 さん (5年)

それまで海が苦手だった土井さんですが、すきとおった海にもぐったり、つかまえた魚を焼いて食べたり、ヤドカリとふれあったりするなどの、白ヶ浦の無人島での楽しい体験は、海の印象を大きく変えました。そして、海の大切さを学ぶことができました。これからもふるさとの淡路島の海を愛する気持ちを忘れないでください。